

作文のプロセス

- ① 取材「何を書くか考える」
- ② 構成「どのように書くか考える」
- ③ 記述「文章を書く」
- ④ 推敲「書いた文章を見直す」

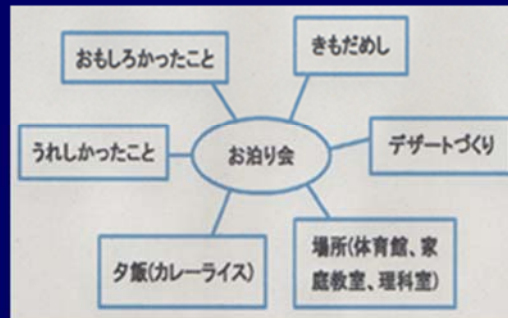
Aくんは、ワーキングメモリーの弱さがあるので、
①取材と②構成を行いながら、同時に③記述を
することが難しいと考えられる

作文を書くためには①取材、②構成、③記述、④推敲といった4つのプロセスがあり、これらを同時に行わなければなりません。

ワーキングメモリーに弱さがあると考えられるAくんにとって、これはとても難しいことと思われます。

概念地図法

- 命題の枠に埋め込まれた一連の概念的意味を表現するための図式的ツール(Novak & Gowin, 1984)を学習に用いる方法。
- 概念地図法によって、書く内容を予め構成しておくことが、限られた容量のワーキングメモリーを処理に向けられる。(黄, 2009)



そこでAくんへの作文指導の方法として「概念地図法」を用いることにしました。

「概念地図法」では、Aくんの強い視覚情報からの概念処理能力や同時処理能力を活用でき、弱い継次処理能力に配慮することもできると考えました。

引用:黄淵熙(2009). 学習障害のある児童への作文指導—ワーキングメモリーへの負担の軽減を中心として—. 東北福祉大学研究紀要33, 365-373

指導方法

(1) 概念地図を用いた題材の設定

決められたテーマについて、思い浮かぶことを自由に書き、概念地図を作成する。

(2) 概念地図の追加・修正

指導者との質疑応答を通して、概念地図に書き足すことや修正することを考える。

(3) 執筆

概念地図を見ながら、書く順序を考え、作文を書く。

概念地図を用いることにより、Aくんの「①取材」の苦手さとワーキングメモリーの弱さに配慮でき、さらに予め書く内容を構成してから作文を書くことは、作文の計画を立てることや書く内容の選択、自分の考えを整理することとなり、「②構成」に対しても効果が期待できると考えました。

指導の結果

- ①指導前の作文の平均文字数は103が、7回目から14回目の指導の平均は201文字になった。
- ②書き終えた概念地図や作文を見て「今日はいっぱい書けた」「いっぱいキーワードが出たな」と嬉しそうに話す様子が見られた。
- ③学校の宿題で、自分から紙に概念地図を書き、書く内容を整理してから課題に取り組んでいた。

Aくんが書いた作文を分析すると、概念地図を作成することにより、徐々に作文の文字数が増加しました。またAくんのお母さんから、学校の国語の授業で調べたことを文章にし、発表する課題が出された際に、Aくんが自分から紙に概念地図を書き、書く内容を整理してから課題に取り組んでいたという話を聞くことができました。

子どもの行動を解釈する

『発達障害児へのピンポイント指導』
～行動を解釈し、個に応じた指導を編み出す～
青山，五十嵐，小野寺（2009，明治図書）

- 発達障害の子どもたちが示す行動の意味を解釈し，ふさわしいアセスメントに基づいて指導を展開する，まさに、この一連のアプローチこそが「ピンポイント指導」であり、「個に応じた指導」であると私たちは考えています。

子ども一人ひとりのつまずきに対して，指導のターゲットを具体的に絞り，効率よく指導することが「ピンポイント指導」です。ここでいうピンポイントとは「一点」という意味ではなく，連続した指導のステップの一過程を焦点化したものです。

そのためには，子どもが示す行動の意味を解釈することが重要となります。

行動を解釈してみましょう

授業中すぐ立ち歩いてしまう

Bくんは、じっと座っていることが苦手です。授業中、課題が終わると走って先生に見せにきたり、立ち歩いて友だちのノートをのぞきこんだり、鉛筆を削りに行ったりすることが度々あります。

どのように指導したらいいでしょう？

授業中にすぐ立ち歩いてしまうBくんの行動の原因を解釈してみましょう。
また、その原因に応じた支援方法も考えてみてください。

Bくんの行動についての解釈(例)

- ① 授業中は立ち歩かない, 用事がある場合には手をあげて先生に言うなどの約束の理解が十分でない。
→理解の問題
- ② 今何をするのか, 次に何をするのかがわからない。
→見通しがもてない
- ③ やりたい思ったことが我慢できない。
→衝動性を抑えられない

これはBくんの行動についての解釈の例です。あくまでも例ですので, 対象となるお子さんの違いによって他にもいろいろな原因が考えられると思います。

方法の検討(例)

①理解の問題

授業中のルールについて教える, いつも思い出せるように掲示する。

②見通しがもてない

学習の予定や課題の順序を予告, 提示する

③衝動性を抑えられない

我慢できたことをほめる

授業中にすぐ立ち歩いてしまうという行動に対して, 原因が異なると支援方法も異なることがわかります。

一つの行動について, その原因を複数考えてみることで, 子どもに応じた支援を考えるうえで重要であると思われます。